

日々の田高（2年生 文学国語）

今回は、2年生の文学国語の授業を紹介します。

中間審査が終わり、ちょうど新しい作品、寺田寅彦の「化物の進化」を読み始めたところです。

生徒一人一人が主体となって作品を読んで、考えたことを表出してほしいという担当の先生の思いから、様々な問いが生徒に投げかけられる展開です。

まず、「幼い頃から今まで、『なぜ』『どうして』と思った疑問や問いを挙げてみよう。」と投げかけられました。

実は、筆者のいう「化物（ばけもの）」を理解する一歩として、「なぜ」「どうして」と思うような現象を意識することが大切なのです。作品を読む前に、生徒一人一人がもつ「なぜ」「どうして」に迫り、表出して意識化します。先生からは、「疑問は様々ですね。人は、疑問を抱えたまま生きていくのです。」と土台となる文が生徒に伝えられました。

次に、2～3人が班になり、作品を読みます。読後、教員が示した「化物」「自然」「科学者」「
」を使って、どんな話なのか自分でまとめます。最後の「」は、各自が大切と考える言葉を入れて、まとめていきます。各自がまとめた後に、班の中で伝えあいます。

生徒たちは、与えられたキーワードを活用しながら、自分の言葉に置き換え表現していきます。友人のとらえ方に関心をもちつつ、自分のとらえ方を表現していく、引き込まれていく様子がよくわかる時間でした。

次の時間からは、作品を深く読み進めていくとのことです。

この作品はどのようなものなのか関心がある方は、ぜひ、インターネットなどで検索してみてください。

なお、寺田寅彦さんは、物理学者で随筆家であり、「天災は忘れた頃にやってくる」と発言をした方とされています。

